

市大を志望する皆さんへ

在学生からのメッセージ

市大に入学した先輩たちに、自らの体験をもとに、受験勉強での心構えや応援メッセージなどを書いてもらいました。



“ 国際社会を生きる ”

国際学部 国際学科 1年
たなか とうい
田中 登偉

広島市立大学を志望される学生の皆さん、国際学部では、5つのプログラムから自分に合った分野を学べる「5プログラム教育」や、英語と日本語以外に8言語から選択して学ぶことができる「第二外国語教育」といった、特色のあるさまざまな学びが皆さんを待っています。目まぐるしく変化する国際社会ですが、それに対するアプローチの仕方は無限にあります。この大学で学びを深め、自分に合った国際社会との接し方を見つけてみてください。

そして、国際学部の入学試験では、現在話題となっているさまざまな国際問題が毎年出題されます。受験する際の勉強では、自分の学力を伸ばす学習だけでなく、新聞やニュースといったメディアを通じ、国際社会に目を向けておくことも必要です。入学後の学びにも必ず役立つので、今の時期から世界に目を向けておきましょう。

最後に、皆さんが抱く夢や目標の達成には、途方に暮れてしまふほど遠く長い道のりがあるかもしれません。しかしそれを乗り越えた先には、輝かしい未来が待っています。それぞれの夢や希望に向かって、力強く前進していきましょう。皆さんの学生生活が充実したより良いものになるよう、応援しています。



“ 将来 選択肢を広げるために ”

情報科学部 1年
ゆあき そうた
湯浅 創太

私は将来ゲームプログラマーになりたいと考えていましたが、大学を選ぶ際にゲーム制作以外の知識や技術を身に付けてから社会に出たいと思いました。そして、最初に考えたのはAIかVRIについての勉強や研究をして、ゲーム業界にいたいということでした。広島市立大学の情報科学部を志望したのは、その両方を学べる環境があったからです。

大学を決める際に自分が何になりたいのか決まっている人は、その仕事の分野そのものについて学べ、その道に直接役立つ知識や技術を身に付けるという進路もあると思います。もし将来自分が何になりたいのか決まっていな人は、少しでも興味のある分野の知識や技術を身に付けてみるのもいいのではないかと思います。

広島市立大学の情報科学部は、情報工学や知能工学、システム工学、医用情報科学が学べる場所です。地域のさまざまな活動を体験できる地域課題演習や、学生が主体的に社会貢献活動を行う市大生チャレンジ事業などの取り組みもあります。受験生はこれから受験勉強で大変になる時期だと思いますが、それを乗り越え自分が行きたいと感じた大学へ進学できるように願っています。



“ 視野を広げて ”

芸術学部 美術学科 1年
やまぐち れい
山口 伶

日本画を描くことが幼いころからの私の夢でした。小学5年生のときに広島市立大学の芸術学部で日本画を学ぶことができると知り、それ以来ずっとこの大学を目指して努力してきました。中学から高校3年生までは、毎年芸術学部のサマースクールに参加しました。それに加えて高大連携講座や公開講座など、芸術学部の教授や学生の皆さんから直接お話を聴く機会をたくさん持ちました。入試前に大学で日本画に触れさせてもらえる貴重な経験ができたことで、試験のことだけではなく入学後の学びのイメージができ、とても参考になりました。

広島市立大学の受験を考えている皆さんには、普段からいろいろな方面にアンテナを張っておくことが大切だとアドバイスをしたいです。自分が興味を持ったことはとことん挑戦し、情報を集め、視野を広げることで、自分だけの新しい近道を見つけていけると思います。私自身もこの大学を目指すに当たって、普段からホームページをチェックしたり、先輩方の作品展示に足を運んだり、とにかく集められる情報はたくさん集めるようにしていました。特にサマースクールは情報収集のための絶好のチャンスです。いろいろなことをたくさん吸収しておきましょう。最大限の力が出せるように応援しています！



Clubs & Circles

広島市立大学の公認クラブ・サークルの活動内容は多種多様で、定番のクラブ・サークルに加えて、ボランティア活動、平和活動、そして創作活動など、ユニークな活動を行う団体があります。

自分の可能性を広げるとともに、学部・学年・学内外などの枠を越えて、「新たな「つながり」を作りましょう！ここでは3つの「おすすめクラブ・サークル」をご紹介します。

02 競技かるた部

こんにちは！競技かるた部部長の浦川です。競技かるたと聞くと、漫画・アニメ・映画で話題となった『ちはやふる』を思い浮かべる人も多いのではないのでしょうか。私たちは小倉百人一首を使用した試合をメインに、実力アップを目指して日々練習を重ねています。昨年度に2人で作った活動団体ですが、部員は次第に増え、9月には近江神宮で開かれる団体戦の全国大会に出場することができました。個人戦でも複数名が入賞・昇段するという成績を収めています。そんな競技かるた部は本年度7人の新入生を迎え入れ、とても賑やかに活動しています。競技かるたの魅力は、老若男女問わず競い合える点であるといえます。さらにそれぞれのプレースタイルがあるため、個性豊かで奥が深いです。初心者・経験者関係なく興味のある人は、ぜひ私たちと一緒に競技かるたの世界を楽しみましょう！！

03 バドミントン部

こんにちは！バドミントン部です。私たちバドミントン部は約50人の部員で活動しています。大会には年に2、3回出場し、好成績を残す部員もいますが、初心者の部員が多いため、誰でも楽しく、気軽に活動できます。普段の活動は、平日（水曜、木曜）は試合形式の練習を多くして、休日（土曜）は試合以外の基礎練も含めて練習しています。

先日は部内の球技大会を行い、約40人の部員が参加し、大会後はみんなでBBQをしました。バドミントン部ではバドミントンだけでなく球技大会のようなイベントを多く開催しているため、先輩、後輩の壁がなく気付いたら仲が深まっています。

初心者も経験者も大歓迎です。ぜひバドミントン部に遊びに来てみてください！！

01 国際交流サークルHIF

(Hiroshima city university International Friendship)

こんにちは！HIFです。私たちは、国際交流ラウンジの運営を通して、留学生と日本人学生が友達になる場を作っています。カードゲームやボードゲームをしたり、自分たちで用意した楽しい企画を実施しています。時にはフランスやドイツなどから来た留学生が主催するイベントもやっています。日本語と英語の両方が飛び交っているので、初めての人でも安心して参加できます。もしかしら、さらに他の言語が飛び交う日もあるかも…？

HIFの部員も、そうでない人も、毎回楽しく交流しています。国際交流ラウンジの開催日は隔週木曜日です。日本人も留学生も、言語・学年・学部問わず大歓迎です。外国人の友達を作りたい人やレクリエーションがしたい人、多言語で話したい人はぜひ遊びに来てください！！



学生広報サポーター
いちレポ
始動！

学生目線で大学の魅力を発信することを目的に活動している「学生広報サポーター」をご存じですか？これまでは個人で記事を執筆することを中心に活動していましたが、2023年度から新体制となり、学生たちによる主体的な活動を目指す広報活動グループ「いちレポ」として活動しています！メンバーそれぞれの好きなことや得意なことを広報に生かせるよう、記事の執筆に加えて、企画、デザイン、撮影などを分担しながら、活動の幅を広げています。

現在の主な活動内容は、広報誌WB.での企画、本学公式ウェブサイト「いちレポ」チャンネルの運営です。

また、広報を展開する上で必要な知識を得るための研修を実施し、個々人のスキルアップを目指します。

皆さんに学生ならではの視点から「いちだい」の魅力をお届けしていきますので、今後の活動にご期待ください！



いちレポの
詳細は
こちら

お問い合わせ
広島市立大学 事務局 企画室企画グループ（本部棟2階）
担当：黒田、浮田
Tel. 082-830-1666
Mail kikaku@m.hiroshima-cu.ac.jp



活躍する市大人

在学生、卒業生を問わず、国内外のさまざまな分野で活躍する「市大人」を紹介します。

どんな経験も必ず将来の助けになる

本学情報科学部を卒業後、情報科学研究科へ進学され、音声対話システムについて研究する坂根さんに、学部生の頃のことや大学院進学を決め手、また最新の情報技術に関する研究や学外で取り組んだ活動についてお話を伺いました。

一学部生時代にはどのようなことを学びましたか。

私は大学入学時、将来やりたいことや今後の進路は特に決めておらず、パソコンも高校生時代はほとんど使っていなかったのが知識は全くありませんでした。そのため、1年次はとにかく授業やさまざまな経験から「自分が興味を持って事柄は何なのか」を知ろうと思いついてアンケート調査を行っていますが、回答率が悪い、旅行後の回答になることからタイムラグが生じてしまうといった問題がありました。一方、SNSや口コミサイトであれば旅行者の旅行中の生の声を収集できることから、このプロジェクトでは、SNSの投稿や口コミをそのままとして観光地の魅力や不満点の分析・可視化を試みました。まず、SNSの投稿や口コミを収集するプログラム作成と分析を学生側が行い、月1、2回のミーティングで成果発表を行って観光連盟側からの要望や意見を取り入れたり、観光連盟によるPR活動の影響を調査したりしました。また、実際に分析を行った観光地数か所ですら現地調査を実施し、分析結果の検証も行いました。こうして得られた旅行者の反応からポジティブな要素（綺麗な景色、スタッフの接客がとてもよかったなど）とネガティブな要素（駐車場が少なく不便、名産品が売り切れだったなど）を抽出し、前者は情報発信でのアピールポイントに、後者は今後の課題解決に繋げていくことを目指しました。学外の方と共同で大きなプロジェクトには初めてだったので、自分の学んできたことや、新たに得た知見を生かして作成したプログラムで分析を行い評価してもらえたことは、大学院生活での大きな経験の一つとなりました。

一大学院への進学を決めた経緯を教えてください。

就職するか進学するか迷っていたのですが、4年次の卒業研究で、もともと興味を持っていた分野の研究に携わることができました。卒業研究に取り組んでいる過程でもっと追究したい「もっと挑戦したい」という思いが強くなり、大学院への進学を決めました。研究室では学生が主体的に研究を行い、学生のやりたい研究内容に対して先生方が真摯に向き合ってくださいます。研究活動や自身のやりたいことにより集中して取り組むことで深い技術を学ぶことができ、同じ志を持った研究室のメンバーと切磋琢磨し、お互いに高め合えるのは大学院でしかないことであり、将来にも必ず役立つ経験になっていると思っています。

一最後に後輩たちへメッセージをお願いします。

大学生だからこそできる、勉学や遊び、サークル活動でさまざまな経験をすべきだと思います。私自身が、情報系の勉学を通して現在取り組んでいる研究活動のきっかけを見出せたり、サークル活動の経験から地域に貢献してみたいと思うようになったからです。また、大学での経験は今後の活動にも繋がっていくと思います。将来のことで悩むこともあると思いますが、経験を積んでおくことで必ず今後の助けにはなはずです。後悔しないよう大学生活を送ってください。

一現在取り組んでいる研究について教えてください。

私はSiriやペッパーくんのような「身近に感じられるシステム」に興味を持っていたことから、音声対話システムの研究を行っており、人間のような対話を行うことができるシステムの実現を目指して研究に取り組んでいます。高校生向けのオープンラボやオープンキャンパス、学部生向けの研究室紹介で実際に音声対話システムと話してもらった機会があったため、もしかしたら知っている人もいるかもしれません。昨年度は、卒業研究からこれまでの研究成果を、沖縄で開催された学会で発表し、外部の方からご意見やアドバイスをいただきました。沖縄に行ったことがなく、学会発表の経験もなかったため、とても良い刺激になりました。最近では「ChatGPT」がSNSやニュースでも話題となっており、非常に高性能であることから、今後の研究活動に

一現在取り組んでいる研究について教えてください。

私はSiriやペッパーくんのような「身近に感じられるシステム」に興味を持っていたことから、音声対話システムの研究を行っており、人間のような対話を行うことができるシステムの実現を目指して研究に取り組んでいます。高校生向けのオープンラボやオープンキャンパス、学部生向けの研究室紹介で実際に音声対話システムと話してもらった機会があったため、もしかしたら知っている人もいるかもしれません。昨年度は、卒業研究からこれまでの研究成果を、沖縄で開催された学会で発表し、外部の方からご意見やアドバイスをいただきました。沖縄に行ったことがなく、学会発表の経験もなかったため、とても良い刺激になりました。最近では「ChatGPT」がSNSやニュースでも話題となっており、非常に高性能であることから、今後の研究活動に

一現在取り組んでいる研究について教えてください。

私はSiriやペッパーくんのような「身近に感じられるシステム」に興味を持っていたことから、音声対話システムの研究を行っており、人間のような対話を行うことができるシステムの実現を目指して研究に取り組んでいます。高校生向けのオープンラボやオープンキャンパス、学部生向けの研究室紹介で実際に音声対話システムと話してもらった機会があったため、もしかしたら知っている人もいるかもしれません。昨年度は、卒業研究からこれまでの研究成果を、沖縄で開催された学会で発表し、外部の方からご意見やアドバイスをいただきました。沖縄に行ったことがなく、学会発表の経験もなかったため、とても良い刺激になりました。最近では「ChatGPT」がSNSやニュースでも話題となっており、非常に高性能であることから、今後の研究活動に

一現在取り組んでいる研究について教えてください。

私はSiriやペッパーくんのような「身近に感じられるシステム」に興味を持っていたことから、音声対話システムの研究を行っており、人間のような対話を行うことができるシステムの実現を目指して研究に取り組んでいます。高校生向けのオープンラボやオープンキャンパス、学部生向けの研究室紹介で実際に音声対話システムと話してもらった機会があったため、もしかしたら知っている人もいるかもしれません。昨年度は、卒業研究からこれまでの研究成果を、沖縄で開催された学会で発表し、外部の方からご意見やアドバイスをいただきました。沖縄に行ったことがなく、学会発表の経験もなかったため、とても良い刺激になりました。最近では「ChatGPT」がSNSやニュースでも話題となっており、非常に高性能であることから、今後の研究活動に

坂根 剛(さかね・つよし)
広島市立大学情報科学研究科
(博士前期課程) 知能工学専攻2年



坂根 剛(さかね・つよし)
広島市立大学情報科学研究科
(博士前期課程) 知能工学専攻2年

G7広島サミット学生ボランティア活動報告

5月に開催されたG7広島サミットに本学の学生4名が「通訳ボランティア」や「おもてなしボランティア」などとして開催に協力しました。無事活動を終えた4名に感想を聞きました。



「通訳ボランティア」 国際学部国際学科4年 首藤 愛結
「おもてなしボランティア」 国際学部国際学科2年 中岡 知優

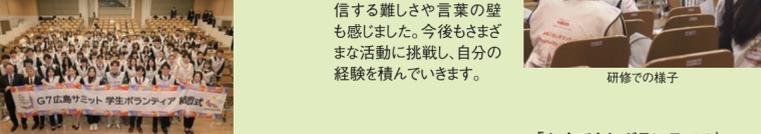
私は、今年の5月に地元・広島で開催されたG7広島サミットに携わりたく考え、学生通訳ボランティアに応募しました。

2月に行われた結団式と研修では、気持ちの良いおもてなしを行うために国際儀礼や案内時の立ち振る舞いを学ぶ機会がありました。実際にロールプレイングを行う機会もあり、大変勉強になりました。

そしてG7広島サミットが閉幕した翌日の5月22日に、広島グリーンアリーナに開設された「国際メディアセンター」内の平展示ブースでボランティアの通訳スタッフとして参加しました。ブースでは、広島平和記念資料館で展示されている展示物のレプリカや、広島市が主体となって行われている平和活動などの紹介を見ることができました。

残念なことには、実際に通訳する機会はありませんでした。しかし、来場されたマスコミ関連の方々や平和に関する資料を真剣なまなざしで鑑賞されている姿を目の当たりにすると同時に、実際にコミュニケーションをなさるとともに、私自身も平和に対する思いを強くすることができ、大変意義のある経験となりました。

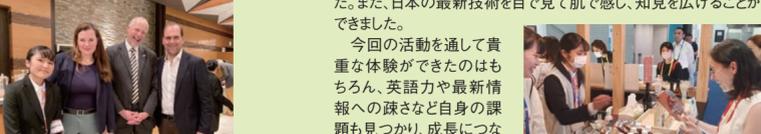
これらの貴重な経験を生かし、大学卒業後もさまざまなボランティア活動に参加していきたいと思えます。



G7広島サミット学生ボランティア結団式

「通訳ボランティア」 国際学部国際学科4年 甲斐 彩加

G7広島サミットに関わることはとても貴重な経験になると思ったので、得意な英語を生かせる通訳ボランティアに応募しました。私は合計6回、ボランティアに参加しました。各国の視察隊の方との立会いや「国際メディアセンター」の平和展示ブースで、通訳ボランティアとして活動しました。現役通訳者の同時通訳や逐次通訳を実際に見て聞けたことも、非常に貴重な体験となりました。ブースで活動しているときに、ある海外の女性と話す機会がありました。その方は合意の展示品を見て、あまりの残念さに涙を流していました。広島の学生として、一人でも多くの人に原爆の恐ろしさを感じてもらえてよかったと思いました。今回のボランティアで一番よかったことは、他大学の学生と交流ができたことです。英語が好きな人や、海外に興味がある人など、自分と同じ関心を持つ人と知り合いになることができました。今回のボランティアの経験を生かして、これからも海外と日本の交流に貢献していきたいと思っています。



各国の先遣隊歓迎イベントでの活動

留学体験記

本学では海外学術交流協定大学との活発な交流・学生交換留学を推進しています。留学を終えた学生から、体験記と、これから留学を考えている学生へのメッセージをもらいました。

言葉の壁を越えて触れたもの

芸術学部デザイン工芸学科4年 西川 陽菜

私にとってこの留学は、今までで最も「言葉」に向き合った時間でした。カナダに行くと、乗り継ぎのシリアル空港で、入国審査官に聞かれた英語が理解できず、何が何だか分からないままゲートを通過するところから、留学は始まりました。当時の私の英語はそれほど拙かったのです。「芸術専攻だから、絵を通してコミュニケーションが取れるだろう」と考えていたのですが、もちろん全てがそう簡単にいくわけがありません。言葉がわからなければ、制作に関することも含め、物事を理解するのに時間がかかりますし、誤解を生んだり、さまざまな問題にぶつかります。そのようなさまざまなアクシデントを通し、「言葉」の重要性を痛感すると同時に「言葉」を使ったコミュニケーションの喜びに気付くことができた時間でした。例えば中国語圏のグループの友人が私と話すために英語を使ってくれたり、ネイティブの友人がなるべく易しい英語で、大きなジェスチャーとともに説明してくれるとき、「私とコミュニケーションを取ろうとしてくれている」と感じたときの喜びは、今までに経験したことのない種類の不思議なものでした。言葉の壁があったからこそ、通じ合えたときの喜びはひとしおでした。

また、海外出身の友人ができたことで、世界情勢への関心が深まったと感じています。今まで「名前だけ聞いたことのある国」が、「友達の家」という鮮明なイメージを持って迫ってくるようになりました。最後にあらためて、拙い私の英語に辛抱強く耳を傾け、伝えようとしてくれたバンクーバーの友人たちの優しさに、深く感謝を述べたいです。良き出会いに恵まれた6か月間でした。

市大ニュース

- 平和に関する「知の拠点」の形成に向けた連携協定を締結 2023年1月25日(水)、本学サテライトキャンパスにおいて、広島大学理理学部1号館における平和に関する「知の拠点」の形成に向けて、本学、広島市、広島大学および広島平和文化センターとの間で、連携協力に関する協定を締結しました。
- 西条農業高校と情報科学部が高大連携および科学技術人材育成に関する協働研究協定の調印式を実施 2023年1月31日(火)、本学の情報科学部と広島県立西条農業高等学校が、高大連携および科学技術人材の育成を目的として協働研究に関する協定を締結しました。
- 2022年度いちだいで地域共創プロジェクトと市大生チャレンジ事業の活動報告会を開催 2023年2月28日(火)、2022年度いちだいで地域共創プロジェクトと市大生チャレンジ事業の活動報告会を合同で開催。いちだいで地域共創プロジェクトは、2022年度から始まった事業で、7件の成果が報告されました。また、市大生チャレンジ事業は3件の報告があり、学生の熱心な活動に高い関心が集まりました。
- 2022年度教員表彰式を実施 2023年3月22日(水)、教員表彰式を実施。若林理事長から、受賞者に対し表彰状が授与されました。教員表彰制度は、教育、研究、大学運営および地域・社会貢献の活動分野において、顕著な実績を残した教員を表彰するものであり、2022年度は23名が選出されました。
- 「いちだいでサイエンスパーク」を開催 2023年3月25日(土)・26日(日)、広島市佐伯区のTHE OUTLETS HIROSHIMAでいちだいでサイエンスパークを開催。科学実験からプログラミングまで、6つのアトラクションを用意し、2日間で575名の児童生徒とその保護者など1,171名の方にご参加いただきました。
- 2023年度(令和5年度)入学式を挙行 2023年4月4日(火)、本学講堂大ホールで2023年度(令和5年度)入学式を挙行了。



先住民についての授業最終日に持ち寄り晩餐会(2列目右から2番目が西川さん)

おめでとうございます

- 芸術学研究科(博士前期課程)1年の濱本美夢さんが「第35回広島市美術展」で優秀賞(工芸部門大賞)を受賞
- 情報科学研究科の今井首郎講師が企画したプロジェクト「養殖業界に革新をもたらす、AIを活用した世界初の樹膠製電網の開発」が「第9回ものづくり日本大賞」で優秀賞を受賞
- 芸術学部美術学科4年の鬼河ひなたさんが「国際瀬富士美術賞」でグランプリを受賞
- 情報科学研究科の児島彰助教が国際会議「FPT2022」の「FPGA設計コンテスト部門」で優勝
- 情報科学研究科と情報科学部の学生らが「2023年学生安全技術デザインコンペティション日本大会」で第3位に入賞
- 情報科学研究科(博士前期課程)1年の林拓未さんが「2022年度スポーツデータサイエンスコンペティション審査会」で入賞
- 情報科学研究科(博士前期課程)2年の渡邊康平さんが「2022年度(第73回)電気・情報関連学会中国支部連合会」で「電子情報通信学会中国支部奨励賞」を受賞
- 情報科学研究科(博士前期課程)2年の讃岐純平さんが「第72回リコンフィキャラブルシステム研究会」で「優秀講演賞」を受賞
- 基町プロジェクトが「第13回地域再生大賞」で優秀賞を受賞
- 芸術学部の西原美非常勤助教が「第18回吉祥寺アニメーション映画祭」で「ゾリ美術館賞」を受賞
- 芸術学研究科(博士前期課程)1年の川本実果さんが現代絵画の公募コンクール展「FACE2023」で「オーディエンス賞」を受賞
- 情報科学研究科(博士前期課程)2年のイヌシヨウさんが「G7広島サミット記念留学生スピーチコンテスト」で1位を受賞
- 情報科学研究科(博士前期課程)2年の近藤匠さんが「電子情報通信学会2022年安全・安心な生活とICT研究会」で研究奨励賞を受賞
- 芸術学研究科(博士前期課程)1年の松本花果さんが「第1回K日本画コンクール」で準奨励賞を受賞
- 芸術学研究科(博士前期課程)2年の栗根誠一郎さんが「第29回伝統工芸芸工芸展」で「朝日新聞社賞」を受賞
- 芸術学部美術学科4年の加藤陽雨さんが「Red Bull Doodle Art」の日本大会で優勝

※学年・職位は受賞当時

表紙作品

2022年度 芸術学研究科造形芸術専攻 修了生 藤原 碧空
「Sculpture(Funeral Play)」(インスタレーション ミクストメディア)
優秀賞

「WEST BREEZE」へのご意見・ご感想を募集します

広島市立大学 広報委員会
○E-mail: kikaku@m.hiroshima-cu.ac.jp
○Tel: 082-830-1666 ○Fax: 082-830-1656
2023年3月25日(土)・26日(日)、広島市佐伯区のTHE OUTLETS HIROSHIMAで「WEST BREEZE」の「パントリー」は、大学ウェブサイト「大学紹介」>「大学広報」>「広報誌『WEST BREEZE』」に掲載しています。

広島誌名
広島市立大学広報誌の表紙タイトル「W.B.」(「WEST BREEZE」の略称)は、広島市立大学のある西風新都にちなんで命名されました。
編集・発行 / 広島市立大学 広報委員会
発行日 / 2023年8月1日

- もみじ銀行等と包括連携協力に関する協定を締結 2023年4月7日(金)、本学と株式会社もみじ銀行、株式会社YMFZ ZONEプランニング、株式会社データ・キュービックが、地方創生の積極的な推進と地域経済の発展に貢献することを目的として、包括連携協力に関する協定を締結しました。
- 市大生ら40名「G7広島ごみゼロ・グリーンキャンぺーン」に参加 2023年4月16日(日)、広島市内で「G7ごみゼロ・グリーンキャンぺーン」が行われ、若林学長兼教職員3名、受付スタッフに課外活動団体MAC電音(軽音部)および女子バスケ部・ボウリング部が計17名、一般の清掃活動に軟式野球部を含む20名が参加しました。
- 名誉教授称号授与式を実施 2023年4月14日(金)、教育や学術上、特に功績があったことなどを理由として、2023年4月1日付けで名誉教授となられた2名の方に対し、若林学長から称号記章が授与されました。
- いちだいで知のトライアスロン 2022年度コメント大賞表彰式を実施 2023年4月21日(金)、図書館3階ラーニング・commons「いこも」において、2022年度コメント大賞の表彰式を実施。受賞者へ弘中附属図書館長から表彰状・副賞が授与されました。
- 公益財団法人松尾孝記念財団奨学金の奨学生が同財団を訪問 2023年5月26日(金)、「公益財団法人松尾孝記念財団奨学金」の奨学生1名が同財団を表敬訪問しました。

この本 ～教員の著書紹介～

情報科学研究科 岡山友昭 准教授
「変数変換型数値計算法」(田中健一郎、岡山友昭 著)
2023年5月、岩波書店

2023年度 学年暦(後期)

後期(10月1日～3月31日)	
10月2日(月)	秋季入学式・後期授業開始
10月28日(土)・29日(日)	大学祭
11月3日(金・文化の日)	全曜日の授業実施
11月7日(火)～11月20日(月)	補講週(6時限に補講を行う週)
11月21日(火)～11月27日(月)	第3ターム試験期間(通年・semester科目は授業を行う)
11月23日(木・勤労感謝の日)	木曜日の授業・試験実施
12月26日(火)～1月4日(木)	冬季休業
1月12日(金)	開学記念日の振替日(授業は実施しない)
1月16日(火)～1月29日(月)	補講週(6時限に補講を行う週)
1月30日(火)～2月9日(木)	後期定期試験
2月9日(金)～3月31日(日)	学年末休業
3月22日(金)	春季卒業式

教員の人事異動

区分	氏名	職名
新任	マーティン・ルカック	情報科学研究科准教授(5月1日付け)

学生と地域の結びつき

広島市立大学国際学部の学生たちは、地域に出でさまざまなプロジェクトに取り組んできました。その中には、島根県美郷町の休耕地での特産品づくり、鷹野橋商店街の活性化、寝台特急端風のおもてなし、そして最近ではドローンを活用した地域資源の探索といった取り組みもあります。

また、島根県美郷町での休耕地での特産品づくりプロジェクトでは、学生たちが地域の方々と協力し、休耕地を活用した新しい特産品の開発に取り組みました。彼らは農業の知識も学びながら、地域の特産品が生まれるプロセスに参加することで、地域の誇りと絆を感じることができました。そして、最近ではドローンを活用し、呉市倉橋島の地域資源の探索プロジェクトに取り組んでいます。学生たちはドローンのルールや操作技術を学び、地域の素晴らしい自然や歴史的な場所の調査やドローンでの撮影を行っています。彼らの活動によって、地域の魅力や潜在的な資源が浮かび上がり、地域振興に役立つ情報が得られることを期待しています。広島市立大学国際学部の学生たちは、地域との協力や交流を通じて、自らの成長と地域社会への貢献意識を高めてきました。これからも地域との連携を深めながら、新たな挑戦を続けていくことにワクワク感が止まりません。



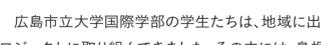
平和を築く3つの光

30周年のマークデザインにあたって
芸術学部デザイン工芸学科視覚造形 教授 納島 正弘

この度、30周年記念のマークのデザインを担当させていただきました。本学のタグラインである「3つのひかり 未来をつくる」の3つの光は、本学を構成する3学部を意味しており、シンボライズされたコミュニケーションマークの色は光の3原色、G(グリーン)/情報科学部、B(ブルー)/国際学部、R(レッド)/芸術学部)をイメージして配色されています。GとBやBとRの光が交わり美しいパールトーンになり、さらにこの3つの光が交わり加色混合で白く輝き、それは平和をもイメージさせます。三角のオブジェクトで構成した「30」のマークを3つの光が照らし出します。3学部が共鳴し合い平和な未来を築くことを願って。

開学当時を知る教員によるリレーコラム

広島市立大学 開学30周年に向けて
+ 国際学部 教授 山口光明



学生と地域の結びつき

広島市立大学国際学部の学生たちは、地域に出でさまざまなプロジェクトに取り組んできました。その中には、島根県美郷町の休耕地での特産品づくり、鷹野橋商店街の活性化、寝台特急端風のおもてなし、そして最近ではドローンを活用した地域資源の探索といった取り組みもあります。また、島根県美郷町での休耕地での特産品づくりプロジェクトでは、学生たちが地域の方々と協力し、休耕地を活用した新しい特産品の開発に取り組みました。彼らは農業の知識も学びながら、地域の特産品が生まれるプロセスに参加することで、地域の誇りと絆を感じることができました。そして、最近ではドローンを活用し、呉市倉橋島の地域資源の探索プロジェクトに取り組んでいます。学生たちはドローンのルールや操作技術を学び、地域の素晴らしい自然や歴史的な場所の調査やドローンでの撮影を行っています。彼らの活動によって、地域の魅力や潜在的な資源が浮かび上がり、地域振興に役立つ情報が得られることを期待しています。広島市立大学国際学部の学生たちは、地域との協力や交流を通じて、自らの成長と地域社会への貢献意識を高めてきました。これからも地域との連携を深めながら、新たな挑戦を続けていくことにワクワク感が止まりません。